

# 平成24年度事業報告

自 平成24年4月 1日

至 平成25年3月31日

## I 事業概要

平成24年度は、前年に発生した東日本大震災と福島第1原発事故により落ち込んだ経済活動は持ち直しつつあるものの、海外景気の減速懸念や長期化する円高により、先行きは不透明な状態が続いております。この国内外の厳しい経済情勢を反映し、本協会の平成24年度の事業収益も減少し、難しい協会運営に直面しておりますが、関係各位ならびに会員の皆様方のご支援とご協力により、何とかこの状況を乗り越えるべく事業運営に邁進しております。

さらに、9月5日には「動物の愛護及び管理に関する法律の一部を改正する法律」が公布されました。主な内容は、第二種動物取扱業の創設を含む動物取扱業者の適正化、多頭飼育の適正化、犬及び猫の引取り拒否の事由の明記、災害対応、罰則の強化などで、動物の愛護及び適正な飼養管理に関する知識等の普及啓発活動を第一の事業に掲げる本協会としては、通信教育内容等の点検の強化に取り組みました。

なお、平成24年度本協会の事業は通常事業の他、重点項目として次の通り設定し、実施いたしました。

① 緊急PR対策

受講受験者数の増加対策としてPRを強化しました。

② 組織体制の見直し

業務執行体制、理事会の業務の拡充、業務執行理事会の業務の拡充、委員会制度、支部など協会の組織体制を見直しました。

③ 支部ブロック制度の創設

ブロック別支部長会議を開催しました。平成25年度からは各ブロック内の支部長が持ち回りで開催することにしました。

④ 調査研究助成の広報の拡大

協会ホームページを通じての広報や、全国約660の大学・学部等を中心に広報を実施しました。

⑤ 犬猫の寿命調査の実施

調査票を完成させ、一般社団法人日本小動物獣医師会の協力による実施に向け調整しました。

⑥ 東洋大学寄附講座（ペットツーリズム論）の開設

秋学期に全15回の講義を開催しました。成果につきましては、報告書を作成し、関係各所に頒布しました。

このような背景を踏まえ、本協会が平成24年度に行った主な事業の概要について報告いたします。

## Ⅱ. 事業内容

### ◆ 第3回定時社員総会、平成24年度第2回定例理事会

平成24年5月24日(木)、第3回通常総会を飯田橋レインボービルにて開催し、平成23年度事業報告、決算報告、監査報告、定款の変更、役員選任の案等のご承認をいただきました。

選任された役員及び選定された業務執行理事は次の通りです。

(理事20名) 小川益男(会長)、椎野雅博(副会長)、東海林克彦(副会長)、大島誠之助(常務理事)、佐々木勲(常務理事)、武田和彦(常務理事)、飯島英恵、池田毅、上田健治、臼井玲子、川口和清、斉藤久美子、対馬美香子、天川九二夫、畠山雅子、平井潤子、福田真由美、長岡裕子、林谷秀樹、山田広美

(監事2名) 安部正弘、望月克夫

### ◆ 平成24年度臨時理事会

平成24年12月21日(金)、平成24年度臨時理事会を協会3階ホールにて開催し、会長が小川益男から東海林克彦に変更になりました。

選定された業務執行理事は次の通りです。

(代表理事1名) 東海林克彦(会長)

## 1. 動物の愛護及び適正な飼養管理に関する知識等の普及啓発事業

### 1) 国及び地方自治体の事業への協力

(1) 環境省等の関係行政機関が主催する動物愛護週間行事等への協力

#### ①動物愛護週間ポスターの配布

環境省が作成した動物愛護週間ポスターを各都道府県の会員に配布し、動物愛護精神の高揚を図りました。

#### ②中央行事：動物愛護ふれあいフェスティバル

環境省は広く国民の間に動物の愛護と適正な飼養についての理解と関心を深めるため、動物愛護管理法に基づき、動物愛護週間に各種行事を実施しています。平成24年9月15日(土)、29日(土)の両日、環境省、東京都、台東区、本協会を含む動物愛護関連公益法人等によって組織された動物愛護週間中央行事実行委員会の主催による「動物愛護ふれあいフェスティバル」が、「見つめ直して、人と動物の絆」のスローガンのもとに開催されました。2日間にわたり、延べ2,297名の参加者を得ました。

9月15日(土)、台東区立隅田公園及び隅田公園リバーサイドギャラリーの行事内容

会 場	内 容
屋外ひろば	動物愛護セレモニー、災害時における避難所での動物飼養管理デモンストレーション
パネル展示コーナー	動物救援活動の写真パネル展示、動物愛護週間ポスターコンクール入賞作品展、ペット写真展

屋外ブース広場	ブース出展社による各種展開、クイズラリー、ペットフード等サンプリング、ペット美容実演、犬のしつけ方相談コーナー
ギャラリーブース	新しい飼い主さん募集コーナー、キッズスペース、動物愛護相談センター広場、老齢動物の飼育ポイント、災害対策コーナー、マイクロチップ紹介、アニマルフォトスタジオ、ブース出展社による各種展開
抽選コーナー	スタンプラリー、動物相談コーナー

中央行事会場のギャラリーブースに「動物クイズ広場」を設け、東京都支部が、犬、猫、小鳥、小動物に関する〇×クイズを実施し、来場者に人気を博しました。高得点の方には「動物はかせ」として認定する旨の表彰状と、協会シンボルマークをかたどった子ども用ノートを贈呈しました。また、適正飼養啓発のための「老齢動物の飼育ポイント」パネル展示を実施し、愛犬と来場した飼い主を対象に、マナー袋の配布を行いました。

#### ③各団体表彰式、動物愛護シンポジウム

9月29日（土）は、上野公園内東京国立博物館平成館講堂にて、各団体の表彰式と動物愛護シンポジウム テーマ「見つめ直して、人と動物の絆～人も動物も幸せに暮らせる社会に向かって～」を開催しました。動物愛護シンポジウムでは、「東日本大震災被災地の現状～災害が起きても一緒に暮らせるように～」と題して東日本大震災における岩手県及び仙台市の現地状況及び動物救護活動や震災に備えた飼い主の準備についての講演が、続いて環境省から「福島県動物救護本部情報提供」と題する報告があり、最後に「人も動物も幸せになれるルール作り」と題して動物のライフステージに合わせた付き合い方、世話の仕方についての講演がありました。

#### ④都道府県等が主催した行事への参加

都道府県等での動物愛護週間行事は多彩に行われました。都道府県・市等と共催または後援・協賛の形で行事に参加した支部は次の通りです。

都道府県等が主催した動物愛護週間行事に参加した支部（33、県令順）

北海道、秋田県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、静岡県、愛知県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、岡山県、広島県、徳島県、愛媛県、高知県、福岡県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

（2）環境省等の関係行政機関が作成したパンフレットやポスター等の増刷や配布協力  
本協会が増刷の許可をいただいている環境省発行の普及啓発用パンフレット9種について、各都道府県支部等の活動を通じて有効活用を図りました。

内 容	部数	配布先
あなただけにできること ～動物の繁殖制限～ (A4)	1,000	都道府県支部 (動物愛護週間行事、イベント等)、 公開セミナー会場、 保健所等
まいごにしないですてないで (A4)	8,500	
捨てないで迷子にしないで (A5)	2,700	
動物の愛護及び管理に関する法律のあらまし (A5)	2,200	
ほんとうに飼えるかな?かう前に考えよう (A4)	8,000	
飼う前に考えて (A5)	3,800	
まもれますか?ペットの健康と安全 (A4)	1,100	
めざせ!満点飼い主 (A4)	5,900	
ペットフード安全法のあらまし (A5)	1,400	
合 計	34,600	

(3) 関係地方自治体の動物愛護センターや保健所等が行う普及啓発事業への協力  
平成24年度、本協会が講師等を推薦した地方自治体が実施した研修会、講習会は次の通りです。

組織名	日程等	研修会、講習会の名称
千葉市健康福祉部衛生指導課	平成24年5月27日	千葉市動物愛護ボランティア講習会
沖縄県動物愛護管理センター	平成24年6月27日	職場体験学習内での講習会 「動物に携わる仕事について」
栃木県動物愛護指導センター	平成24年10月19日、24日、30日	動物取扱責任者研修会
埼玉県保健医療部生活衛生課	平成25年2月8日	動物取扱責任者研修会
三重県健康福祉部	平成25年2月24日	ペットと飼い主のための防災セミ

		ナー
北海道釧路総合振興局	平成25年度3月5日	動物取扱責任者研修会
徳島県動物愛護管理センター	平成25年3月9日	災害時の動物救済及び同行避難に関する研修
名古屋市健康福祉局 健康部食品衛生課	平成25年3月22日	名古屋市動物愛護推進員養成講習会
大津市動物愛護センター	合計19回、49名	ねこの飼い方講習会  (愛玩動物飼養管理士視聴覚教材  「心の声に耳をすませて、トラピィーとミケの物語 (猫編) 上映)

(4) 関係地方自治体が設置する動物愛護推進協議会への参画

各都道府県等が定める動物愛護推進員設置要綱等に基づき、平成24年度は動物愛護推進員として秋田県1名、東京都13名、札幌市5名、大阪市2名の愛玩動物飼養管理士の推薦依頼があり、協力しました。現在、本協会が推薦した動物愛護推進員総数は254名です。

(5) 本協会会議室の提供

動物愛護週間中央行事実行委員会(環境省、東京都、台東区他8団体)が行った平成24年度の中央行事の運営に関する打合せ、東日本大震災緊急災害時動物救援本部会議、及び評価委員会(学識経験者からなる評価委員会委員5名及び4団体からなる救援本部委員14名)等に際して会議室を提供しました。

2) 動物の愛護及び適正な飼養管理に関する知識等の普及啓発を行う指導者の養成と教育

(1) 愛玩動物飼養管理士通信教育の実施

二級愛玩動物飼養管理士(32期)及び一級愛玩動物飼養管理士(28期)の通信教育を実施しました。平成24年度の愛玩動物飼養管理士の新規受講者総数は9,986名であり、前年度比95%578名減で、平成14年度と同じ水準となりました。内訳は、1級新規受講者数は1,831名で前年度比86%302名減、2級新規受講者数は7,568名で前年度比96%339名減となりました。高等学校からの準2級新規受講者数は587名で前年度比112%63名増でした。構成は、スクールからの団体受講が6,937名で構成比69%83名増、一般が3,049名で構成比31%661名減となりました。

平成24年度の認定試験は全国55会場で12月16日(日)に実施しました。試験の結果は次の通りでした。

認定試験実施結果

(単位:名)

受験級	受験資格者数	受験者数	合格者数	合格率(%)
一級	1,899	1,830	1,436	78.5

二級	7,921	7,547	6,056	80.2
準二級	585	574	383	66.7
計	10,405	9,951	7,875	79.1

#### (2) 愛玩動物飼養管理士養成制度採用校との協力

全国の専門学校等の106校で愛玩動物飼養管理士の通信教育が実施されました。平成25年度から新たに指定校となる次の3校を加えると、指定校は合計24校となります。

・新たに指定校となった3校

学校法人吉田学園 吉田学園動物看護専門学校、東京都立園芸高等学校、岡山理科大学附属高等学校

・既存の指定校である21校

横浜トリミングスクール、学校法人東京愛犬学園 東京愛犬専門学校、リバティペットケアカレッジ、専門学校ちば愛犬動物学園、九州ペット美容専門学院、学校法人高橋学園 エス・ワン動物専門学校、学校法人孔明学園 東北愛犬専門学院、学校法人工藤学園 愛犬美容看護専門学校、群馬動物専門学校、ナンバペット美容学院、国際ペットワールド専門学校、沖縄県立中部農林高等学校、学校法人穴吹学園 穴吹動物専門学校、専門学校 ルネサンス・ペット・アカデミー、沖縄ペットワールド専門学校、学校法人菅原学園 仙台総合ペット専門学校、専門学校穴吹看護カレッジ、盛岡ペットワールド専門学校、学校法人未来学舎 専門学校未来ビジネスカレッジ、京都動物専門学校、学校法人宮崎総合学院 宮崎ペットワールド専門学校

#### (3) 2級教本の「動物のしつけ」の全面改定

平成23年度、「動物のしつけ」の全面改定版を作成いたしました。平成24年度の通信教育から使用しております1級「動物の行動学」は、平成25年度章立て等の見直し作業を行い、平成26年度から改訂版の執筆を行う予定です。

#### (4) 生涯学習講座の実施

平成24年度は愛玩動物飼養管理士スキルアップ講座と題して、2級通信教育のスクーリング（講習会）を受講する講座を次のとおり開催しました。

会 場	開 催 日	参加人数
① 愛知県名古屋市	平成24年7月28日(土)	2名
② 宮城県仙台市	平成24年8月 4日(土)	1名
③ 大阪府大阪市	平成24年8月18日(土)	0名
④ 東京都新宿区	平成24年8月19日(日)	2名
計		5名

### 3) 調査研究及び情報の収集、提供

#### (1) 平成24年度犬・猫の暮らし向き調査研究の計画について

平成24年度は、本協会と東京農工大学でこれまで行ってきた寿命調査の内容に従って、一般社団法人日本小動物獣医師会（以下、日小獣という）の会員の協力を得て行うことで、日小獣にお願いしました。このことにつきましては、5月の日小獣総会においてご了承戴きました。日小獣の事務局をたずねて、当面の課題について打合せを行いました。

（2）閲覧室の蔵書の収集と提供

図書閲覧室で各種文献・学術論文等の収集（約5冊増）と提供（約4冊貸出）を行いました。

4）相談会、講習会、講演会、展示会及び調査研究発表会等の開催

（1）ペット飼養相談会の開催

各都道府県支部が動物愛護週間等でペット飼養相談会を開催しました。

（2）電話や手紙によるペット飼養相談の受付

電話や手紙などによりペット飼養に関する相談を受けました（約400件）。

（3）人と動物の共生を考える市民公開セミナーの開催

一般市民を対象とした動物の愛護と適正飼養管理知識の普及のため、恒例の「人と動物の共生を考える公開セミナー～動物とのよりよい関係をめざして～」の第14回を開催しました。平成23年度は東日本大震災に伴う経費節減のため、開催会場を4会場としましたが、本年度は例年通り8会場で開催しました。今年度の基調講演のテーマは、引き続き「人と動物が幸せに暮らすために～犬・猫の食事～」とし、獣医学博士の大島誠之助常務理事と獣医師の荒井延明先生にお願いしました。また、あわせて、開催地行政担当者による動物愛護行政の取り組み、愛玩動物飼養管理士による適正飼養に関する飼養体験についての発表を基調講演に先立って実施しました。

なお、環境省及び開催府県・開催市のご後援をいただきました。

公開セミナー開催地

開催日程	開催地	開催会場	入場者数
平成24年11月4日（日）	岐阜市	岐阜産業会館 第一会議室	31
平成24年11月11日（日）	秋田市	秋田県庁第二庁舎 大会議室	57
平成24年11月18日（日）	新潟市	新潟県土地改良会館 501会議室	50
平成25年2月3日（日）	宇都宮市	パルティ（とちぎ男女共同参画センター） 研修室301	51
平成25年2月17日（日）	静岡市	パルシェ（JR静岡駅ビル）第1・2・3 会議室	66
平成25年3月3日（日）	奈良市	奈良商工会議所 大ホール	68

平成25年 3月10日(日)	松山市	ひめぎんホール 第8会議室	21
平成25年 3月17日(日)	熊本市	パレア(くまもと県民交流館) 会議室1	86

#### (4) ペット写真展の開催

人とペットとのふれあいの楽しさ、動物愛護の心などが表されている写真を通じて、写す側、鑑賞する側双方の動物愛護精神の涵養を図ることを目的として、一般公募方式により「第32回全国ペット写真コンテスト」を開催しました。総勢370名の方から752点の応募をいただきました。その内訳は次のとおりでした。

全国ペット写真コンテスト応募実績

動物種類	応募者数	割合(%)
犬	448	59.6
猫	196	26.1
鳥	39	5.2
小動物	28	3.7
その他	41	5.5
計	752	100

8月7日(火)に開催した本審査会において、主催者、後援者及び写真家により厳正に審査した結果、45点の入賞作品を選出、最優秀作品に授与するペット大賞(環境大臣賞)は、勝見 淳さん(山形県山形市)の作品「きゃ〜くすぐったい」に決定しました。上位入賞者表彰式は9月29日(土)、中央行事屋内会場(東京国立博物館平成館)において行い、受賞者には、賞状及び副賞として入賞作品をプリントしたトートバッグ及び賞金を贈呈しました。入賞作品はパネルにして、9月15日(土)中央行事屋外行事隅田公園リバーサイドギャラリーに展示し、来場者から好評を得ました。後援は、環境省、社団法人ジャパンケネルクラブ、一般社団法人ペットフード協会、日本鳥獣商組合連合会からいただきました。過去の全国ペット写真コンテスト入賞作品パネルは、次の貸与先に貸出しを行っています。

ペット写真パネル貸与先

行 事 名	貸 与 先
動物愛護週間行事	北海道オホーツク総合振興局、北海道檜山振興局、山形県、 鹿児島県、郡山保健所、千葉県支部、石川県支部、静岡県 支部、岡山県支部



(5) 管理士による調査研究発表会

9月6日(木)に本協会にて、管理士発表者選考審査会を実施しました。この審査会で選ばれた2名の会員は、人と動物の共生を考える市民公開セミナーの機会に、発表を行いました。

5) 調査研究活動への助成

家庭動物の適正な飼養管理について、科学的知見を踏まえた各種普及啓発活動を実施するための基盤整備、調査研究の活性化および研究者の育成を図ることを目的に、大学・研究所等に調査研究活動への助成を行いました。

(1) 平成24年度は下記の3名を採用し、合計130万円の助成を行いました。平成24年度の助成期間は、平成24年4月～平成25年3月までの1年間。

1	伊藤 直之	北里大学獣医学部 (准教授)		53才
	調査研究課題	ペットショップの子イヌにおけるクリプトスポジウム感染の実態調査		
	研究費総額	105万円	助成額	44万円
2	三澤 尚明	宮崎大学産業動物防疫リサーチセンター (教授)		54才
	調査研究課題	人獣由来 <i>Helicobacter cinaedi</i> の分子疫学解析と臨床への応用		
	研究費総額	110万円	助成額	60万円
3	加隈 良枝	帝京科学大学生命環境学部アニマルサイエンス学科 (講師)		39才
	調査研究課題	都市部における飼い猫および野良猫の行動モニタリング調査		
	研究費総額	80万円	助成額	26万円

(2) 過年度の調査研究の成果報告(要旨)を協会ホームページに掲載しました。

平成22年度(8件)、平成23年度(5件)

<http://www.jpc.or.jp/activities/research-grants/>

(3) 平成25年度の募集期間は平成24年8月1日(水)～11月15日(木)で、主に協会ホームページ、全国の大学・学部を中心に広報を行いました。(約660の学校・学部)合計12件の応募者があり、調査研究等助成委員会で審査を行なった結果、4名を候補者として選考しました。平成25年度の助成期間は、平成25年4月～平成26年3月までの1年間で予定しています。

6) 機関誌等図書印刷物の刊行

(1) 機関誌『愛玩動物』の発行

各号の主な内容は次の通りです。

機関誌の内容

225号（5月発行）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エンジョイバードライフ「羽でみる健康チェック」</li> <li>・わんだー犬聞録「犬のアレルギー対策」</li> <li>・第32回 全国ペット写真コンテスト作品募集</li> </ul>
226号（7月発行）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定時社員総会開催報告</li> <li>・身近な生きものとの出会いを楽しむ</li> <li>・わんだー犬聞録「老犬にやさしい環境づくりと介護」</li> </ul>
227号（9月発行）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第32回全国ペット写真コンテスト入賞作品発表</li> <li>・全国動物愛護週間行事予定</li> <li>・小型ペット ミニ講座「トカゲの病気」</li> </ul>
228号（11月発行）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「動物の愛護及び管理に関する法律」改正</li> <li>・わんだー犬聞録「日本一の警察犬を目指して」</li> </ul>
229号（1月発行）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・已年にちなんで 一もっと知りたいへビのコト</li> <li>・特別企画「猫は優秀はハンター」</li> <li>・わんだー犬聞録「理想のドッグラン運営を目指して」</li> </ul>
230号（3月発行）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災支援活動報告 -いまだ続く復興への道のり-</li> <li>・東洋大学において「ペット・ツーリズム論」を開講</li> </ul>

## （2）本協会ウェブサイト等の広報媒体の活用

インターネットによる公益法人のディスクロージャー（情報公開）の充実により業務運営の透明化及び適正化を図るため、最新の業務及び財務等に関する情報を公開しております。協会ホームページのサーバー内に「支部ページ」を設け、希望する支部にホームページの開設の場を提供しております。現在29支部が支部ページを運営しております。

また、愛玩動物飼養管理士通信教育を広く一般に広報するために、本協会ホームページに詳細を掲載するとともに、平成25年度の募集にあたり資料請求のためのメールフォームを新規に設置しました。犬・猫雑誌、全国紙（朝日、読売、産経）に広告を掲載し、全国行政機関、全国公共施設（公立図書館、生涯学習センター、大学・短期大学全学部、専門学校等）、都道府県鳥獣商組合、ペット関連企業、犬猫雑誌購読動物病院、本協会34支部、本協会会員（『愛玩動物』3月号同封）にポスター・チラシ・三つ折りリーフレットを送り、掲出等を依頼しました。

## （3）飼養相談事例集及び飼育読本等の出版

愛玩動物飼養管理士実践ガイドブックとしてのペット飼養相談実例集は、愛玩動物飼養管理士が普及活動の中で、飼養相談の実践に役立つよう編集したものです。平成20年度より、毎年改訂版を刊行するのではなく、2～3年に一度見直すこととしました。平成23年度は大改訂を行い Vol.17 が完成しました。平成23年度認定試験に合格し認定登録された会員から頒布を開始し、それ以外の管理士には会員価格 750 円、非会員価格 1,500 円で頒布しています。平成24年度は 1,468 部頒布いたしました。

パンフレット等の頒布状況（概数）

ウサギの飼い方	1,150
ねこの飼い方（新刊）	4,250
小鳥の飼い方	1,050
ひとと動物の防災を考えよう	15,400
協会シンボルマークノート	500
いっしょになかよくシール	17,900
協会シンボルマーク入りクリアフォルダ	16,250
協会パンフレット（3つ折り）	17,180
愛玩動物飼養管理士のしおり	14,930
折り紙（犬）	12,650
折り紙（猫）	12,650
動物〇×クイズセット グリーン	6,600
動物〇×クイズセット ブルー	10,100
動物〇×クイズセット ピンク	8,000
計	125,960

## 2. その他本協会の目的を達成するために行った事業

### 1) 関係団体との情報交換等の実施

幅広い情報の収集を図るために、関係団体との情報交換を行いました。また、普及啓発活動の推進に当たって必要となる環境整備を図るため、災害時における動物救護及びマイクロチップ等による所有者明示措置等の関連事業を、関係団体との連携を図りながら実施しました。

2) 「第24回日本動物児童文学賞」への審査協力

公益社団法人日本獣医師会が、次代を担う子どもたちのために、動物の愛護、動物の適正飼養、人と動物のふれあい、人と動物の共生等を扱った文学作品を世に送り出すことを目的に設置した児童文学賞で、本協会から椎野雅博副会長が審査員として協力しました。

3) 東日本大震災の被災動物支援、震災復興関係の主な活動

(1) 緊急災害時動物救援本部の活動

次の4団体が連携して本部を構成。活動は、環境省のご指導を受けながら、4団体が一致協力して実施。

(公財) 日本動物愛護協会、(公社) 日本動物福祉協会

(公社) 日本愛玩動物協会、(公社) 日本獣医師会

①東北3県動物救護本部

自治体名	組織名	現況
岩手県	岩手県災害動物救護本部	平成23年8月解散
宮城県	宮城県緊急災害時被災動物救護本部	平成24年3月シェルター閉所
仙台市	仙台市被災動物救護対策本部	継続中
石巻市	石巻市動物救援センター	平成23年9月閉所
福島県	福島県動物救護本部 福島県食品生活衛生課	平成24年3月事務局終了、譲渡担当は継続
	福島県動物救護本部 福島県獣医師会	平成24年4月救援本部移管、継続中
	飯野シェルター (福島市)	平成25年2月閉所
	三春シェルター (三春町)	継続中
いわき市	いわき市動物救護本部	継続中
	いわき市ペット保護センター	
緊急災害時動物救援本部 福島シェルター (三春町)		平成24年1月閉所

②救援活動実績

- ・東北3県 (岩手・宮城・福島県) の各現地本部が保護した犬と猫の頭数  
犬 1,581 頭、猫 2,117 頭、合計 3,698 頭
- ・ボランティア登録数  
動物の一時預り 3,284 人、動物保護シェルター1,140 人、動物や物資の輸送 582 人、  
合計 4,068 人
- ・人による支援活動実績  
福島原発中継基地支援 500 人、救援本部シェルター465 人、都内支援物資集荷所 2 ヲ所  
711 人、延べ人数 1,676 人

③地方獣医師会と都道府県との「災害時における動物の救護活動に関する協定」締結状況 (平成24年1月末現在)

- ・協定締結等 : 26 獣医師会、19 都府県、7 政令市
- ・協定締結予定・検討中 : 13 獣医師会、12 道県、1 政令市
- ・未定 : 16 獣医師会、16 県

④義援金の募集と執行実績

- ・預かり義援金 30,176 件 691 百万円 (内本協会分 24 百万円)
- ・支出金額 490 百万円  
(配分交付実績 1～3 次 (116 件) 406 百万円、救援運搬費 8 百万円、福島本部シェルター・中継基地経費 3 6 百万円、支援物資保管諸経費 6 百万円、救援本部事務局経費 2 7 百万円、救援活動諸経費 7 百万円)
- ・預かり義援金残高 201 百万円

(2) 動物愛護 5 団体で構成する「東日本大震災東京都動物救援本部」が協働して行った救援活動

- ・ 運営は東日本大震災東京都動物救援本部（構成団体：東京都家庭動物愛護協会、東京都獣医師会、日本動物愛護協会、日本動物福祉協会、日本愛玩動物協会）が行った。
- ・ 平成 2 3 年 9 月、東京都は日野市の東京都の敷地に東京都動物救援センターを開設した。収容対象動物は都内被災者（避難者）同行動物であり、預り動物の飼養管理、獣医療提供、預り動物の返還・譲渡等を行った。平成 2 4 年 9 月末にて閉所した。
- ・ 保護収容した頭数（平成 2 4 年 4 月現在）：犬 1 4 頭、猫 1 1 頭

(3) 本協会が独自に行った救援活動

ホームページ、機関誌『愛玩動物』、イベント（パネル展示）にて被災動物救援活動の広報

※参考 東日本大震災緊急災害時動物救援本部評価委員会

東日本大震災における、緊急災害時動物救援本部の業務遂行及び義援金の活用等について、有識者としての知見と経験に基づいて評価を行い、その結果を東日本大震災緊急災害時動物救援本部長に報告することを目的に評価委員会を設置し、中間のまとめが報告されました。

4) 規程等の整備

平成 2 4 年度、本協会規程の主な新設と変更は次のとおりです。

区 分	規 程 名	会 議 名	議 決 日
変 更	支部規程	第 1 回定例理事会	平成 2 4 年 5 月 1 0 日
変 更	定款	第 3 回通常総会	平成 2 4 年 5 月 2 4 日
新 設	本協会の組織体制の改善方策に関する特別規程	第 6 回定例理事会	平成 2 5 年 3 月 2 7 日

5) 協会が関係する外部会議（県令順）

平成 2 4 年度に本協会の関係者が参加した外部会議は次の通りです。

(1) 業務執行理事及び職員等

名 称	目 的・事 業	委 員
全国動物愛護推進協議会	動物愛護管理法の周知と推進	椎野雅博

東日本大震災緊急災害時動物救援本部会議	被災動物の救護	椎野雅博 佐々木 勲 白井百合
動物ID普及推進会議	マイクロチップの普及推進	椎野雅博
動物個体識別研究会	マイクロチップの総合的研究	崎田克康
動物愛護週間中央行事実行委員会	中央行事の実施計画立案	原 清士
ペット法学会	ペット諸問題の法的見地からの研究	小森直博
宮城県動物愛護推進協議会	動物愛護管理推進	白井百合
東京都動物愛護管理審議会	東京都における今後の動物愛護管理 行政のあり方の諮問	崎田克康
東日本大震災東京都動物救援本部会議	被災動物の救護	白井百合

(2) 支部役員等

北海道動物愛護推進協議会	動物愛護管理推進	武田和彦 名取裕憲
(社)秋田県観光連盟	ペットツーリズム推進事業	村上 泉
秋田県動物愛護推進協議会	動物愛護管理推進	村上 泉 千葉 紫
秋田県動物愛護推進計画検討会	動物愛護管理推進計画策定	村上 泉
茨城県動物愛護推進協議会	動物愛護推進	勝山亜佐美
茨城県の保護管理及び愛護啓発業務等委託 プロポーザル審査委員会	〃	
災害時動物救護対策検討委員会	〃	
栃木県動物愛護推進協議会	〃	福田真由美

宇都宮市動物愛護推進協議会	〃	
栃木県動物愛護フェスティバルあり方検討会	平成25年度動愛センター設立20周年記念事業 企画検討	
災害時避難動物等対策班	災害時動物救援対策	
群馬県動物愛護ふれあいフェスティバル検討会	普及啓発イベント企画検討	川口和清
動物愛護フェスティバル in まえばし検討会	普及啓発イベント企画検討	川口和清
高崎市動物愛護ふれあいフェスティバル検討会	普及啓発イベント企画検討	
さいたま市動物愛護推進協議会	〃	加藤紀子
上尾伊奈狂犬病予防協会	狂犬病予防集合注射、AI 犬フェスティバルの計画運営	望月功 岡井早苗
千葉県動物愛護管理推進協議会	動物愛護管理推進	駒田房江
千葉県動物救護連絡会	被災動物への支援	
なかよし動物フェスティバル 2012in ふなばし検討会	普及啓発イベント企画検討	駒田房江 吉竹玲子
なかよし動物フェスティバル 2012in かわ検討会	〃	駒田房江
財団法人千葉県動物保護管理協会	千葉県内の動物愛護と適正飼養の普及	川岸恵子
昭島市総合防災訓練関係機関会議	動物同行避難を含む総合防災訓練	岩浪真紀 茅野智子
豊島区災害時における動物救護に関する意見交換会	動物同行避難に関する意見交換	岩浪真紀 横塚正江

神奈川県動物愛護管理推進協議会	動物愛護管理推進	山田広美
人と動物との共生推進よこはま協議会	〃	
横浜市港南区動物連絡会	動物愛護管理推進	中村真由美
富山県動物愛護推進協議会	〃	清水憲子
福井県動物愛護フェスティバル企画検討会議	動物愛護フェスティバル企画運営	坂川逸海 中屋敷隆夫
福井県動物愛護管理推進計画行動委員会	動物愛護管理推進	坂川逸海
山梨県動物愛護デー検討会	動物愛護フェスティバル企画運営	飯島英恵
静岡県動物愛護管理推進委員会	動物愛護管理推進	沖 紀代
社団法人静岡県動物保護協会	静岡県動物愛護フェスティバル 2011 実行委員会	沖 紀代 長倉美智江
静岡市被災動物救護計画検討会議	災害時動物救護活動の検討	沖 紀代
社団法人静岡県動物保護協会	理事会・総会出席	
愛知県動物愛護推進協議会	動物愛護推進	高野哲代
名古屋市動物愛護推進協議会	〃	
「動物フェスティバル2012なごや」準備会	動物愛護フェスティバル準備	
三重県動物愛護管理推進協議会	動物愛護管理推進	三宅須磨子
滋賀県動物保護管理センター事業推進協議会	〃	足立由紀子
京都府動物愛護管理推進計画評価検討委員会	動物愛護管理推進	西原裕美
京都市動物愛護推進協議会	〃	
京都市動物愛護センター（仮）ワーキンググループ	〃	



大阪府動物愛護推進協議会	動物愛護管理推進	西村尚一
大阪市動物愛護推進会議	〃	安原智子
兵庫県動物愛護管理推進協議会	動物愛護管理推進	芳川雅美 河合弥生
和歌山県動物愛護推進協議会	〃	加賀友子
(社)鳥取県獣医師会	猫の不妊・去勢手術推進	山本由美 佐々木真須美
(社)倉吉青年会議所	動物愛護管理推進	山本由美
岡山県動物愛護推進協議会	〃	池田 毅
倉敷市動物愛護審議会	〃	
倉敷市適正飼育啓発員育成部	〃	
岡山県動物愛護フェスティバル実行委員会	普及啓発イベント企画検討	池田 毅
岡山市動物愛護フェスティバル実行委員会	〃	楠本浩子
倉敷市動物愛護フェスティバル実行委員会	〃	
広島県動物愛護管理推進協議会	動物愛護管理推進	西原春美
とくしま地震防災県民会議	防災マップ作成、防災イベント企画 ・運営	渡部奈美
徳島県動物愛護推進協議会	動物愛護推進	
香川県動物愛護推進懇談会	〃	長尾直枝
高知県動物愛護推進協議会	〃	吉村美紀 齋藤喜美子 石川充寿
福岡県災害時動物救護対策協議会	〃	櫻内京子

福岡県動物愛護推進協議会	〃	
福岡市動物の愛護と管理推進協議会	〃	波多江靖子
福岡県動物愛護週間行事打ち合わせ会議	普及啓発イベント企画検討	櫻内京子
動物愛護フェスティバル in ふくおか	〃	岡崎瑞枝 波多江靖子
古賀市地域イベント「まつり古賀」	〃	櫻内京子
北九州市動物愛護推進協議会	動物愛護管理推進	金子美香 猪熊勝子 大津邦夫
鹿児島県動物愛護推進協議会	〃	永吉ゆかり
沖縄県動物愛護管理推進計画懇話会	動物愛護管理推進計画策定	金城育子
那覇市愛護サポーター	動物愛護管理推進	
那覇市協働大使	〃	宮城直子

※参考（協会理事等）

名 称	目 的・事 業	委 員
環境省中央環境審議会動物愛護部会	動物関係法令の検討	臼井玲子
東日本大震災緊急災害時動物救援本部	被災動物の救護	平井潤子
(財) 自然環境研究センター	平成 23 年度福島県警戒区域内の被災ペットの保護及び飼育管理業務 における検討会委員	平井潤子
動物愛護週間中央行事実行委員会	中央行事の実施計画立案	
福島県動物愛護推進懇談会	福島県動物愛護行政の在り方検討	長岡裕子

いわき市動物行政のあり方検討懇談会	いわき市動物愛護センター（仮称） について検討	
彩の国動物愛護推進員支援協議会	動物愛護推進	平井潤子
東京都動物愛護推進協議会	動物愛護管理推進	
東日本大震災東京都動物救援本部会議	被災動物の救護	

6) 各種行事への後援等

主 催	開催時期	開催地	内 容
代々木公園わんわんカーニバル 実行委員会	平成24年4月	東京都	公園わんわんカーニバル2012
公益社団法人日本動物病院福祉 協会、一般社団法人日本臨床獣医 学フォーラム	平成24年6月	東京都	WJVF（WEST JAPAN VETERINARY FORUM）第3回大会
一般社団法人ペットフード協会 メサゴ・メッセフランクフルト（株）	平成24年8月	千葉県	インターペット2012 ～人とペッ トの豊かな暮らしフェア～ 後援
動物愛護フェスティバル2012 インこもろ実行委員会	平成24年9月	長野県	「動物愛護フェスティバル2012 インこもろ」後援
三重県健康福祉部	平成24年9月	三重県	平成24年度動物愛護の絵・ ポスター募集の後援
公益財団法人日本動物愛護協会	平成24年11月	東京都	第5回日本動物大賞後援
社団法人ジャパンケネルクラブ	平成24年12月	東京都	ジャパンドッグフェスティバル 2012 後援
社団法人東京都家庭動物愛護協 会	平成25年3月	東京都	「犬と楽しくアウトドア・シン ポジウム」後援

### Ⅲ. 役員、会議、委員会等

(平成25年3月31日現在)

#### 1. 役員等

役員(21)	代表理事(1)	会 長	東海林克彦
	業務執行理事 (4)	副会長	椎野雅博
		常務理事	大島誠之助、佐々木勲、武田和彦
	理 事(14)		飯島英恵、池田毅、上田健治、臼井玲子、川口和清、斉藤久美子、対馬美香子、天川九二夫、長岡裕子、畠山雅子、林谷秀樹、平井潤子、福田真由美、山田広美
	監 事(2)		安部正弘、望月克夫
名誉会長(1)			大鷹淑子
相談役(3)			経徳禮文、鈴木松衛、西村尚一
顧 問(7)			猪俣治太郎、内田美由紀、實藤憲正、鈴木登、橋本洋一、花澤公子、山崎いく子

#### 2. 会 議

社員総会、理事会、業務執行理事会

	会 議 名	開 催 日	審 議 事 項
①社員総会	第3回定時社員総会	平成24年5月24日(木)	平成23年度事業報告・決算報告 役員等選任、東日本大震災報告
②理事会	第1回定例理事会	平成24年5月10日(木)	平成23年度事業報告・決算報告、 諸規則変更
	第2回定例理事会	平成24年5月24日(木)	業務執行理事選定、認定委員選任
	第3回定例理事会	平成24年6月7日(木)	業務執行理事担当、業務執行報告
	第4回定例理事会	平成24年10月25日(木)	平成24年度上期事業報告・上期決 算報告、業務執行報告
	臨時理事会	平成24年12月21日(金)	会長交代
	第5回定例理事会	平成25年2月5日(火)	平成25年度調査研究助成、業務執 行報告
	臨時理事会	平成25年3月14日(木)	協会の組織体制のあり方について
	第6回定例理事会	平成25年3月27日(水)	平成25年度事業計画・予算、組織 体制諸規則変更、指定校名義使用
③業務執行	第1回業務執行理事会	平成24年4月24日(火)	平成23年度事業報告・決算報告

理事会	第2回業務執行理事会	平成24年6月1日(金)	業務執行理事担当
	第3回業務執行理事会	平成24年9月6日(木)	試験問題整理、諸規則変更
	臨時業務執行理事会	平成24年11月30日(金)	日程調整
	第4回業務執行理事会	平成25年1月23日(金)	平成25年度事業計画・収支予算案
	第5回業務執行理事会	平成25年2月19日(木)	協会の組織体制のあり方について
	第6回業務執行理事会	平成25年3月18日(月)	平成25年度事業計画・収支予算案、諸規則変更、組織体制、指定校名義使用

### 3. 各種委員会

#### (1) 委員会の概要

委員会名	回数	審議事項
① 愛玩動物飼養管理士 認定委員会	6	通信教育全般、教本審議、スクーリングカリキュラム、 課題報告問題作成、認定試験問題作成、認定試験合否裁定 等の審議
② 諸規則検討委員会	2	定款・諸規程の改廃の審議
③ 倫理委員会	0	倫理規程の審議及び運用
④ 中央行事委員会	1	中央行事の企画立案及び実施
● 写真コンテスト審査会	1	写真コンテスト審査
⑤ 適正飼養普及委員会	0	飼育読本及びペット飼養相談事例集の編集、 疾病予防に関する知識の普及、犬のしつけ
⑥ 市民公開セミナー委員会	3	公開セミナーの企画立案と実施、
⑦ 支部運営委員会	5	支部設立、支部運営の指導・支援、災害対策
● 支部長会議	1	支部活動の指導・助言、予算決算
⑧ 管理士生涯学習委員会	3	管理士の卒後教育、動物愛護推進員の育成、 動物関連法律・条令等の普及教育
⑨ 調査研究助成等委員会	1	大学等及び研究所への研究助成
⑩ 機関誌編集委員会	6	機関誌『愛玩動物』の企画・編集業務

● 機関誌編集小部会	6	機関誌『愛玩動物』の企画原案の検討
⑪ ホームページ委員会	1	ホームページのデザイン変更及びコンテンツ・支部ページの調整
⑫ 飼養管理調査研究委員会	4	犬・猫の暮らし向き実態調査
計	40	

(2) 委員長及び委員 (50音順)

委員会名	委員長	委員
① 愛玩動物飼養管理士認定委員会	菅野茂 (東京大学名誉教授)	宇山理奈 (アイドル総合病院副院長)、荒井延明 (スペクトラム・ラボ・ジャパン)、大木富雄 (日本ペットフード顧問)、大島誠之助 (倉敷芸術科学大学客員教授)、北垣憲仁 (都留文科大学特任准教授)、斉藤久美子 (斉藤動物病院院長)、武部正美 (武部獣医科医院長)、対馬美香子 (あすか動物病院)、沼田一三 (兵庫県動物愛護センター所長)、本藤良 (日本獣医生命科学大学名誉教授)、水越美奈 (日本獣医生命科学大学講師)、村松梅太郎 (日本獣医生命科学大学客員教授)
② 諸規則検討委員会	佐々木	大島、椎野、東海林、武田、天川
③ 倫理委員会	椎野	上田、佐々木、天川
④ 中央行事委員会	平井	石山、岩浪、菰田、横塚、渡邊
⑤ 適正飼養普及委員会	武田	上田、対馬、福田、山田
⑥ 市民公開セミナー委員会	山田	池田、岩浪、坂川
⑦ 支部運営委員会	平井	飯島、池田、上田、川口、椎野、長岡、橋本
⑧ 管理士生涯学習委員会	上田	青木、駒田、畠山
⑨ 調査研究助成等委員会	委員名は公表しません	
⑩ 機関誌編集委員会	大島	飯島、伊藤、沖、斉藤 (幸)、対馬、畠山
⑪ ホームページ委員会	川口	安満、岩波、駒田、内藤
⑫ 飼養管理調査研究委員会	大島	宇山、坂川、対馬、林谷

#### 4. 支部

平成25年3月現在で次の36支部を設置しており、支部会員の登録率は26%です。(県令順)

7ブロック	支部名
北海道・東北 (4)	北海道、宮城県、秋田県、福島県
関東 (7)	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
北陸・信越 (4)	富山県、石川県、福井県、長野県

中部（４）	山梨県、静岡県、愛知県、三重県
近畿（６）	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
中国・四国（７）	鳥取県、岡山県、広島県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州・沖縄（４）	福岡県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県
計	36 支部
(注) 未設置県（11 県）：青森県、岩手県、山形県、新潟県、岐阜県、島根県、山口県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県	

## 5. 会員の状況

(単位：名)

正会員	団体正会員	16
	個人正会員	104
一般会員	普通会員	14,234
	学生会員	678
賛助会員	個人賛助会員	0
	団体賛助会員	11
名誉会員		1
合 計		15,044

## 6. 役職員の状況

常勤役職員の状況

(単位：名)

区 分	年度初	増 加	減 少	年度末	次年度4月1日
役 員	2	0	1	1	1
職 員	8	0	0	8	7

計	10	0	0	9	8
---	----	---	---	---	---

以上